（公財）とやま国際センター広報誌

TIC NEWS

2025 1 Vol.154

公益財団法人とやま国際センター設立40周年記念行事 多文化共生フォーラム

・講座、イベント情報
・ＪＩCA富山デスクからのお知らせ
・世界のあれこれレポート
・作ってみよう！世界のレシピ

Live Together In Toyama

多彩な野菜が人々と心をつなぐ
～娘にとってのふるさとを元気に～

「底抜けに明るくパワフル」。青山さんは、ひとことで言うとそんな女性です。食卓の笑顔を思い浮かべながら、日々、野菜づくりに励んでいます。多彩な野菜はダイバーシティにもつうじます。青山さんには、辛い過去も笑い話に変えながら語っていただきました。また、今後の展望や富山に対する思いについてもお話を伺いました。

青山麗子（本名：王麗坤）

中国の遼寧省大連市生まれ、富山市池多地区在住。2005年に初来県後、日本人男性と結婚。その後、再婚し一女をもうける。病気がちな夫に代わり家計を助けるため農業を始める。「青ちゃん畑」をイメージブランドとして野菜の少量多品種生産を続ける。（直接卸店：L'évo,Piatto Suzuki Cinque,Cave Yunoki,御料理ふじ居,海老亭別館,酒菜工房だい,Trésonnier等多数）

――――富山に来られたきっかけは？

実は、富山へ来る５年ほど前に日本を訪れたことがあります。先に国際結婚をして神戸市に住んでいた姉の出産前後３ヶ月間を私がサポートしました。その間、喘息がウソのように止まり、日本に住みたいと強く思うようになりました。まさに人生の転機でした。富山に来たのは2005年2月です。国際結婚の相談所の紹介で、立山町の農家の男性と結婚しました。

――――富山で暮らしてみてどうでしたか？

義父母が同居していたのですが、義父から義母への暴力が絶えない家でした。ずっと家にいたくはないので、運転免許を取りたい、外で働きたい、クルマを欲しいと言い続けました。最初、夫は少しは理解してくれましたが、義父母が猛反対。運転免許は、今と違って日本語しかない学科試験も猛勉強して一発合格しました。ですが、その先は認めてくれず、しまいには３人がかりで暴力をふるってきました。警察を呼んだこともありましたが、当時ＤＶについての認識がまだ低く、「警察は家庭内のことには立ち入れない」と取り合ってもらえませんでした。結局、一度目の結婚生活は1年２ヶ月で終わりました。ほかの相手を紹介するとなれば、また手数料が入るので、国際結婚の相談所が夫に離婚を勧めてくれたおかげですね。

そのあとも、意地でも日本に残ろうと思いました。そのまま再婚せずにいたらビザが切れてしまう状況のなか、神戸や東京を転々としたのち、富山に戻って食品工場で働き始めました。同僚の中国人女性の夫が紹介してくれた同級生が私にとっての二度目の夫です。2006年11月に今の自宅に入り、12月に結婚しました。あとで知ったことですが、同居開始時点で夫は他の中国人女性と婚姻関係がありました。夫にとっては12月下旬に労災事故で足を骨折、前妻と離婚、そして私と再婚という具合にドタバタ続きでした。ですが、労災の給付金で中古車を買うこともできたので、骨折も悪いことばかりではなかったですね。

――――農業を始めたのはどのような経緯からですか？

夫は優しい人でしたが、病気がちでした。結婚の翌年に生まれた娘を保育所に通わせ始めると同時に、私は工場での部品検査の仕事に就きました。ですが、収入が十分ではなく、家計を助けるためにと目をつけたのが山菜や周辺で採れるフキノトウ、ヨモギでした。山菜は中国のものとは違うので、たくさん本を読んで勉強しました。兼業だと時間のゆとりがなく、やがて農業に専念するようになりました。富山県で専業農家になった外国人は自分が初めてではないでしょうか。それでも、やはり辛いことはありました。農協に出荷している他の年配の生産者たちからしょっちゅうイジメられました。日中間の政治的な話題を吹っかけられたり、「中国へ帰れ」と怒鳴られたりしましたが、自分は正しいという一心で耐え抜いてきました。

――――野菜づくりではどのようなことを心がけていますか？

露地栽培、無農薬にこだわりながら、珍しい野菜、見たことがないような野菜にチャレンジし、品種数を増やしてきています。今は食用花やマイクロ野菜も作っています。誰かから頼まれて作るのではなく、自分が作りたいものを作り、できたものをみんなから欲しいと言われれば、満足を感じます。珍しいものを少量ずつ栽培することで、皆さんから重宝がられています。大根やニンジンなどは、様々な色のものを作っています。カラフルで多彩な野菜が多くの人々と心をつないでくれていると思っています。

――――野菜づくりが軌道に乗った理由は特にありますか？

総曲輪の地場もん屋へ2010年のオープン当初から野菜を出しています。8～9年前からは「青ちゃん畑」と記し、私の顔写真が入ったシールを商品に貼り始めました。私の顔をブランドとして打ち出していったのです。そのことも売上げが伸びた理由のひとつだと思います。

さらに転機となったのは、有名レストラン「レヴォ」のオーナーシェフ、谷口英司さんとの出会いでしょうね。あるとき、谷口さんが地場もん屋で私の野菜をごっそり買っているところを見かけたのがお付き合いの始まりでした。谷口さんは料理のイメージに合うものをどんどん買ってくれています。そこから広がって、今では、県内のいくつかのレストランなどとも直接の取引があります。メディアに取り上げられるようになったのも、谷口さんからの紹介がきっかけでした。日本語に自信がなかったので、はじめは断っていたのですが、押し切られてしまって。例えば、２年前には女優の冨永愛さん、今年は県内出身タレントの池田航さんも取材に来ました。

――――今後の展望についてはどうですか？

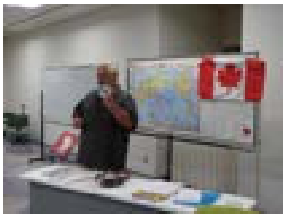
細く長く野菜づくりを続けたいと思っています。無理して生産量を増やしても長続きしません。時間のゆとりがなくなっていくだけですので。今年の年末までに畑の一画に家を新築する予定です。そこに直売所も設け、野菜はもちろん手作りの惣菜も売りたい。そのことが少しでも池多地区の活性化につながればうれしいと思っています。夫は亡くなりましたが、現在高校生の娘にとってのふるさと、自分にとっての第二のふるさとを元気にしたい。生まれる場所を自分で決めることはできませんが、子どもが生まれる場所は親が決めます。ですから池多地区を魅力的なところにしていくのは、親としての責任だと思っています。そして、百年後であっても、池多で野菜づくりをしていた青ちゃんってヒトがいたよね、と言ってもらえたらうれしいです。

――――富山に対するメッセージがあればお願いします。

富山は住みやすくて、風景、海や山の産物が素晴らしい。人々も優しい。イジメてきたのはごく一部の人たちです。メディアで取り上げられるようになって、いろんな人が声をかけてくれるようになりました。谷口さんとつながることで富山の多くのシェフたちとの絆もできました。富山で暮らすことで、一度きりの人生が幸せなものとなりました。「日本人ではないけれど富山県民です」と誇りをもって言えます。富山のため、池多地区のため、今後も頑張っていきます。

とやま国際塾

10月19日（土）、県内高校生を対象とした「とやま国際塾」を開催しました。今年は高校生11名、海外研修員３名、県費留学生３名、県国際交流員(CIR)６名が参加し、互いに交流を深めました。午前の部「お互いを知ろう」では、CIRが企画したゲームで盛り上がり、楽しみながらコミュニケーションを図りました。午後の部「国際協力講座」では、セネガルに派遣されたJICA海外協力隊OGの安川依希子さんから現地での活動体験を紹介していただき、国際協力について考えるワークショップを行いました。続いて、カナダ出身で富山市岩瀬地区で民泊施設を経営しているケイレン・キースさんに、多岐にわたって英語で楽しくお話いただきました。



国際交流ひろば～世界のお菓子教室～

第3回目のテーマはブラジルのお菓子。国際交流員のアリーネさんと一緒にキャロットケーキとパステウを作りました。ブラジルのキャロットケーキにはチョコレートソースが定番、パステウは揚げ餃子のような食べ物です。焼き菓子に揚げ物と盛り沢山でしたが、全員で協力して美味しく出来上がりました。参加者の方からは「ブラジルの料理を知れてよかった」「パステウなど見たことがない材料の料理が良かった」などの感想が寄せられました。

英語読書会

今年度はじめての試みとして英語読書会を行いました。1回目はアメリカのユーモリスト、デビッド・セダリスのエッセイに挑戦。オーストラリアのスラングや独特の文化を背景に、おかしく、そして時に悲しく描かれる人間ドラマを味わいました。2回目は起業家ポール・グラハムの長文エッセイを読み、「好きなことを仕事にするとはどういうことか?」、「成功とは何か?」というテーマについて参加者が英語で意見を交換しました。「１人で読むのは難しいが、コーディネーターに導いてもらって、みんなで楽しく勉強できました」等の感想が聞かれました。

人材バンク通訳者セミナー

11月３０日(土)、「体験!同時通訳の世界」と題し、LLI井上語学研究所所長の井上美則さんを講師に迎えて通訳者セミナーを開催しました。参加者には事前に課題の予習もしていただきました。セミナーはレクチャーの後、非常に本格的な演習を交えた体験型のものとなりました。参加者からは「同時通訳の雰囲気や世界を垣間見られて、素晴らしい経験ができた」「実習時間が十分に確保されており、とても実践的な内容だった」「とても刺激的な時間だった。母国語の重要性を改めて認識した」と、好評をいただきました。

English Immersion Classroom

今回は"アメリカ料理文化を知る"、"イスラムとは?"、"日本のアメリカ化&アメリカの日本化"という3つのクラスを英語で行いました。マットさんからは歴史的、地理的に様々な文化の影響を受け、変わり続けるアメリカの食文化についての紹介がありました。ゾライスさんからは礼拝や断食などのイスラム教の基礎知識の説明があった後、受講者がイスラムについてのクイズに挑戦しました。ノアさんからは、アメリカからもたらされた野球やコンビニエンスストア等が日本でどのように受容され、発展を遂げ、またアメリカに逆輸入されたかということを例に、文化は相互に影響し循環していくものという話がありました。

防災出前講座（四季防災館見学）

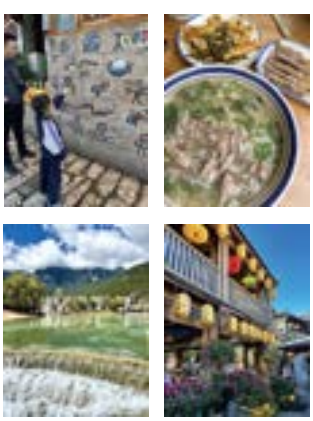
12月18日（水）、富山国際学院の留学生39名（ネパール28、ミャンマー5、中国3、スリランカ1、モンゴル1、タイ1）を対象とした防災出前講座を富山県四季防災館にて行いました。やさしい日本語による防災知識の講座の後、２グループに分かれて地震体験、煙体験、暴風体験、消火体験の４つの体験アクティビティに参加しました。参加者からは「地震の恐ろしさを身をもって体験できた」「災害が起きた時に母国の家族と連絡する方法がないことに気付き不安に感じた」「日頃から災害用持出袋などを準備しようと思った」などの感想が寄せられました。

雲南体験記

TIC職員の山本優花です。10/14～21まで中国雲南省友好青少年交流週間に参加しました。中国雲南省の魅力と中国に行って感じたことをお伝えします!

中国は漢族を含め56の民族で構成されており、雲南省にはその約半数にあたる26の民族が暮らしています。その1つであるナシ族の人々は今でも「東巴（トンパ）文字」と呼ばれる象形文字を使っていて、麗江市のお店や町の標記には、中国語と並んで東巴文字が併記されています。実際に書いてみると、各部位にしっかり意味があったり、時折漢字に似た形があったりしてとても面白いのです。東巴文字を守り続けているナシ族の人々の並々ならぬ努力と誇りを感じました。また、滞在中の食事で度々目にしたのが「米線（ミーシェン）」と呼ばれる米からできた麺。フォーより柔らかく、ビーフンよりつるんとしています。唐辛子やパクチーを入れたものが人気でしたが、私はパクチーが苦手なので牛肉とペパーミントの米線をいただきました。それから、雲南省では野生のキノコがよく採れるので、日本では高級なキノコも安価で手に入ります。ホストマザーに作ってもらった餃子スープには、餃子の具とスープにこれでもかと松茸がたっぷり。日本で食べたら一体いくらになるのでしょうか…(震)

雲南省は壮大な自然と華やかな街の共存がとても美しい都市でした。人々はとても温かく歓迎してくれました。一方で、中国と日本では文化も人々の価値観も全く異なり、驚くことが多かったです。けれどそれはただ「違う」だけで、どちらが「良い」「悪い」という話ではありません。この違いを知るだけでも、ネガティブな報道を鵜呑みにせず一歩下がって俯瞰することができます。今回の訪問で価値観を広げられたのは、私にとって大きな収穫でした。みなさんも、機会があればぜひ雲南省を訪れてみてください!



左上：東巴文字　右上：米線（ミーシェン）
左下：藍月谷　右下：麗江古城

（公財）とやま国際センター設立40周年記念行事

令和6年11月23日(土)、パレブラン高志会館において、県議会、市町村などのご来賓をはじめ、多くの賛助会員、国際交流団体、一般県民の皆様のご参加のもと、富山県との共催により、(公財)とやま国際センターの設立40周年記念行事を開催しました。

富山県国際交流部門功労表彰及び第29回とやま国際草の根交流賞受賞式

ー富山県国際交流部門功労表彰ー

日本語教室in黒部

相互学習型の日本語教室を開催し、市内在住の外国人に対して日本語学習支援を行うとともに、地域行事への協力を通じて地域の担い手としての活動を行うなど多文化共生の推進に貢献されました。

ーとやま国際草の根交流賞（団体）ー

ふれあい日本語教室たかおか

やさしい日本語による対話教室及び体験・見学教室を継続的に開催するほか、子ども食堂配膳などのボランティア活動等に参加し、外国人住民の社会参加の後押しにも尽力されました。

ーとやま国際草の根交流賞（個人）ー

桜井 倫子さん

高岡市の外国人向け生活相談員を務め、富山日伯交流友の会会員としてイベントに積極参加するほか、街なかイベントでブラジル料理を提供するなど、国際交流や多文化共生の進展に尽力されました。

中川 泰三さん

富山市民国際交流協会の役員として、イベントの企画運営などに指導的役割を果たし、市の姉妹友好都市等に関する講演会やパネルトークを企画するなど、民間親善交流の推進に尽力されました。

廣瀬 ふみ子さん

音楽教諭としての豊富な経験を活かし、ハンガリーで開催される国際合唱コンクール等に派遣団を引率し成果を挙げるなど、長年にわたり継続してハンガリーとの音楽交流に献身的に関与されました。

ベーラム・ナワブ・アリさん

在住パキスタン人の同胞たちに日本のルールや文化を伝え続けるとともに、ボランティア団体の設立を主導するなど、外国人コミュニティのリーダーとして、多文化共生の実現に尽力されました。

（公財）とやま国際センターのあゆみ

昭和59年11月24日	（財）とやま国際センター設立
昭和59年11月27日	県森林水産会館2階で事務所開き
昭和60年6月1日	事務所を富山県民会館4階に移転
昭和62年9月12日	事務所をマリエとやま6階に移転
平成2年1月23日	地域国際化協会として自治大臣認定
平成6年4月1日	富山県海外協会を統合し、旅券事業部門を設置
平成7年3月30日	特定公益増進法人として富山県知事認定
平成8年2月26日	事務所をタワー111ビル4階に移転
平成11年11月2日	文部科学大臣より留学生受入れ制度100年記念表彰
平成15年2月10日	日本海学推進機構　設立
平成16年4月1日	富山県大連事務所　開設
平成23年4月1日	公益財団法人へ移行
令和元年6月18日	富山県外国人ワンストップ相談センター　開設

1989年　留学生交流会

2001年　高校生国際協力セミナー

2019年　富山県外国人ワンストップ相談センター開所

令和６年度多文化共生フォーラム
～CHIKOと考えよう！多文化共生～

日時：令和６年11月23日（土）14：30～16：00
場所：パレブラン高志会館　カルチャーホール

ゲスト：ジャズシンガー　CHIKO（チコ）さん
聞き手：多文化共生マネージャー　中村　則明　さん

父はアフリカ・コンゴ民主共和国出身、母は富山県魚津市出身。父の母国に伝わる民謡などをベースにしたアフリカ音楽を中心にジャズ、ソウルなど多くのコンサート活動を行っており、彼女のパワフルな歌声は多くの人を魅了し続けている。2024年5月には2枚目となるアルバム『MY RADIO』を発売。

――――お父さんとお母さんの出会いは？

太閤山ランド開業の年のイベントで出会ったのがきっかけだったそうです。日本から出たこともない母でしたが、演奏に来ていた父をすぐに追いかけて、「ちょっと行ってくるわ～」とそこから数年アフリカに住むことになりました（笑）さて、アフリカに着いた母、することがなくて毎日暇で人形を作り始めたのが人形作家になるきっかけになりました。最初は粘土やトイレットペーパーで。そして、表面にはいつも持ち歩いていた美しいちりめんの「端切れ」やアフリカの織物、ビーズを貼ってオリジナルの人形を完成させました。

ところで、アフリカと一言に言っても国、言語、そして音楽もさまざまです。父はコンゴ民主共和国の出身ですが、コンゴ自体も200もの部族からなっています。その中でもサカタ族というのが父の家族の属する部族です。で、このサカタ族、現代で言うところのなんというか「スピリチュアル」な部族で黒魔術師とかがつい最近まで普通にいたらしいのです。魔術師がなんでも解決するから警察も裁判所もなかったなんて話を父方の親戚から実際に聞いて驚きました。

――――音楽との出会いは？

父は前述の通りミュージシャンで、劇団四季の初代パーカッショニストを務めた人でした。日々の生活の中にいつも音楽があふれていて、トイレから出てくるたびに、ライオンキングのフレーズを歌ったり、ズンチャっ♪ズンチャっ♪てしながら歩いていたり（笑）それが普通でしたね。けれど幼少期の自分にとっては、あくまでも音楽は「表現」の一つであって、仕事にするなんて思ってもいませんでした。ただでさえ、富山で、ハーフの小学生で、目立っていましたし。「黒い子！あっち行って」って、「あなたは日本人じゃない」って、そう人に言われてきて、自分を表現するなんてできなかった。なるべく目立ちたくなかったし、その当時は音楽をやっていこうとは思わなかったですね。

――――高校生のとき尺八をやっていたと聞いたけど？

それは母が勧めたからです。日本の素敵なものはきちんと覚えて、いつでも人に教えてあげられるようにしなさいという母の教えです。確かに日本ってすごいこと、もの、文化、音楽がいっぱいあるのに、外国に行っても誰もその魅力をちゃんと伝えられないですよね。

結局音楽をやりたいと思ったのは18歳になってからでした。自分を変えたいなって。もっともっと自分を表現したいな、と思って、そして浮かんだのが「音楽」でした。

――――（会場からの質問）：地域に外国人がたくさん住んでいる。コミュニケーションをとるにはどうしたら良い？

まずはその人について知ろうとすることから始めたら良いと思います。そして対話できるといいかな。その人がどんな文化で、宗教で、どんな習慣を持っていて、と知ろうとすることは大事だなと思います。さっきも言った通りアフリカとひとくくりにしても色んな国があります。例えばセネガルはムスリムの方が多いです。そうやって相手を知れば、気を付けることとか、その人の考えみたいなものが分かるようになるかな、と思います。

――――（会場からの質問）：さっき日本のいいところという話があったけど、富山はいいところだと思う？

私たち（質問してくださった方とは）、魚津の同郷なんですよ。そうそう、富山は良いところですよやっぱり。特に、これは言っていいかわかんないけど、魚津の人はおせっかいやよね（笑）私が音楽やってるっていったら「どこどこのチコちゃん、歌うたっとんがやと。あんただっか紹介してま。聞いてみてま」とか勝手に話が広がってね。最初、音楽といえば東京ということで上京しましたけど、富山でいただいたご縁が今の私の音楽を作ってくれているな、と感じます。富山に戻ってきてからの方が自分の音楽ができてる。だからおせっかいともとれるこの富山の人のあたたかさは、私はすごく良いな、と思いますね。

――――（会場からの質問）：私は外国人と日本人のMIXルーツ。日本で生まれて日本で育った。たまに自分のアイデンティティの揺れというか、自分って何者なんだろうって思うことがある。チコさんはどうだった？

質問してくれてありがとう。MIXルーツにとって「このアイデンティティの揺れ」の問題は誰しも多かれ少なかれ抱える問題かなと思います。その中で「マイクロアグレッション」について紹介したいと思います。これは「小さな攻撃性」というものなんだけど、悪気ない一言が傷つけることがあるというものです。「日本語上手ですね」「字、書くの上手ですね」とか。あとは昔はありましたよね、クレヨンの「肌色」。そしてお店に並ぶファンデーションの色。自分は違うんだと嫌でも思い知らされる。でもそこには傷つけようとか攻撃しようとかそういうものはない。ないんだけど、偏見や思い込みにもとづいた小さな攻撃性があるんですよね。相手は褒めているつもりの「日本人より日本人らしいよね」という言葉は「あなたは違う」というメッセージでもあるんです。昔はね、人が笑っていると私のことで笑ってるんじゃないか、とビクビクしていました。でもそういう経験をしたからこそ、男性や女性、障害のあるないとか、すべてのことにあてはめて考えることができるようになったな、と思います。私だって周りの人に偏見を持たないで接してみよう、気をつけようと思うようになったんですよ。
（質問者から）ありがとうございます。高校生の頃の自分に聞かせてあげたい言葉でした。

――――「黄色い帽子」と「ニューヨーク」のエピソードについて紹介してくれる？

さっきも言った通り、幼少期はとにかく自分がまわりの子たちと違うことが毎日毎日嫌で仕方なくて。小学校ってあの黄色い帽子かぶるじゃないですか。けど私の髪はこのとおりで、これはもちろんパパのルーツだけど、アフリカの強い日差しから守ってくれる環境に適した髪なんですよね。ただまさかこんな雪の降るさっむい魚津に来るなんてこの髪も思ってなかったやろうね、全然帽子がかぶれない。で、母が、髪を編み込みのドレッドヘアにしてくれたんです。これで「やった！帽子がかぶれる！」と思って学校に行ったら「蛇女だ！」と男子に言われて。大泣きして家に帰りました。そして、「お母さんのせいだ！こんな髪型にしたのも、こんな見た目に産んだのも全部お母さんのせいだ！」と母に言いました。けど、さっきも言ったとおり母もあんな人だから「別にあんたはあんたやろ。」とだけ。その時は見た目も普通のお母さんに何が分かるんって思いました。そしたら母は「普通ってなに？普通って誰？」と。そしてあれは私とアキラ（弟）が小学生だった頃、夏休みに母が私達をニューヨークに連れて行ってくれたんです。そこで見たニューヨークの人たちの光景は忘れられないですね。びっくりしました。蛇女と言われた髪型の女の子が楽しそうに歩いてて、真っ赤なビキニのおばあちゃんがいて。その時はじめて母の言った「普通ってなに？」の意味が分かった気がしました。

――――最後に一言どうかな？

日本って「人に迷惑をかけるな」ってよく言われますけど、アフリカでは、「誰かに迷惑をかけないで生きることはできない。大切なのはその時に助けてあげること。そしてそのお返しは本人ではなく誰か違う人にしてあげること」と言われます。なるほどなあ、と思いました。なにかしてもらって、その本人に恩返しをするんじゃんくて、別の人に優しさを返してあげる、優しい輪が広がっていくんですよね。きっと多文化共生にもつながる考え方なんじゃないかなと思います。

富山デスクからのお知らせ

JICA海外協力隊 発足60周年

JICAの海外協力隊事業は、1965年（昭和40年）4月に日本政府の事業として発足しました。初代隊員がラオスに派遣されて以来60年。これまでに、のべ5万人以上の隊員が世界各地の開発途上国で活動してきました。現在、富山県からは15人の隊員が活動中です。（2024年12月時点）。

お申込みは
こちらから

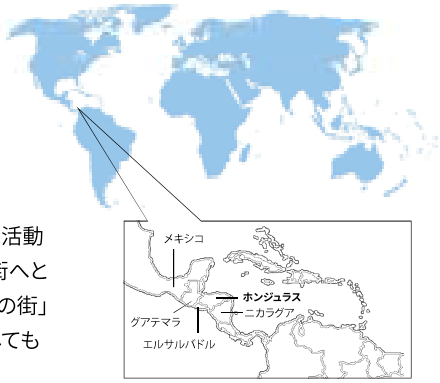
「すべての人が個人として尊重される地域社会の実現へ～共創ネットワークの可能性」

日時 ： 2025年1月24日（金）14:30~
会場 ： タワー111（インテックビル）3階スカイホール
ゲスト：田村 太郎氏
（一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事）ほか
主催 ： 共創の未来とやま
共催 ： 富山県、富山市、（公財）とやま国際センター

Field Report 富山県出身のJICA海外協力隊員からの現地レポート

津田　雄飛（つだ・ゆうひ）　さん

派 遣 国　ホンジュラス
職　　種　青少年活動
派遣期間　2023年1月～2025年1月



¡Hola! ホンジュラスの首都近郊の観光地であるサンタ・ルシア市で英語教育の活動をしています。平日は閑静な街ですが、週末になると多くの観光客が訪れて別の街へと様変わりします。美しい湖や教会、イベントで盛況な公園が人気スポットです。「花の街」「結婚の街」とも呼ばれているため、美しい花に囲まれる花祭りや結婚式の場としても有名です。

数年前から英語が義務教育となり、幼稚園と小学校の先生たちへの研修が間に合っておらず、英語教育の知識と技術の向上が急務の課題です。授業観察や研修会の実施、教材作成の補助などを通して、英語力の向上と授業改善を行っています。先生たちの取り組みのおかげで、この2年間で全学校にICT機器とwi-fiを設置してもらったり、幼稚園と小学校用に作成した教科書を配布したりすることができました。また、昨年の10月には現地の教職員が発案した英語フェスティバルが開催されるなど英語教育への関心が高まってきたように思います。文化や考え方の違いから苦労することが多い日々ですが、残りの期間も現地の自助努力を大切にした活動を行っていきたいです。

JICA海外協力隊に関するご質問にお答えします！

JICA北陸では、協力隊経験のあるスタッフや帰国後の進路開拓の相談を受け付ける青年海外協力隊相談役（キャリアコンサルタント）があなたのJICA海外協力隊に対する疑問や不安にお答えします。お気軽にご連絡ください！

【問い合わせ】　JICA北陸　富山デスク（とやま国際センター内）　担当：金岡
TEL：076-464-6491／E-mail:jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp

CIR(国際交流員)に聞いてみた　世界のあれこれレポート

2025.January

今回のテーマ：各国の成人式・成人年齢について

BRAZIL　ブラジル出身　アリーネさん

ブラジルの成人年齢は18歳です。運転免許、飲酒、喫煙も18歳から可能です。日本のように成人式や特別な服装を着る習慣はないのですが、盛大にパーティを開いたり、車をもらったり、海外旅行に行ったりすることがあります。もう一つ違うのは、選挙権です。ブラジルでは16歳から任意で選挙できます。そして18歳から69歳までは義務であるため、選挙に行かないと罰金が科されます。結婚は、親の許可があれば、16歳から結婚できます。18歳の男性は、入隊義務がありますが、全員が入隊するわけではなく、様々な理由で多くの男性が免除されます。

KOREA　韓国出身　ヘミンさん

韓国の成人年齢は満19歳で、この年齢になると飲酒と喫煙が可能になります。日本とは違い長い間、慣習的に数え年を使用していたこともあり、飲酒と喫煙が可能になるのは満19歳になる年（数え年で20歳になる年）の1月1日からで、場合によっては満18歳でもお酒を飲むことができます。運転免許は日本と同様に満18歳から取得できるので、入試が終わった高校3年生は大学入学前までの期間中よく運転免許を取りにいきます。成人式のような行事は特になく、成人の日（5月第3月曜日）にプレゼントをもらうぐらいです。

RUSSIA　ロシア出身　タチアナさん

ロシアには決まった成人の日はありません。成人年齢は現在18歳ですが、最近20歳に引き上げの話があります（話だけで進んではいない）。飲酒、喫煙は18歳から。運転免許は16歳から取得できますが、正式な免許の書類は18歳にならないともらえません。ですので車の運転は18歳からです。ただしモペッドの運転は16歳から可能です。結婚は基本的には男女とも18歳以上ですが、特別な理由があれば16歳、時には14歳からも可能です。また、公証の委任状がないと18歳まで1人で飛行機に乗れません。特定の犯罪について刑罰を受けるのは14歳以上です。

AMERICA　アメリカ出身　アリスさん

アメリカでは成人式の伝統はないですが、一応成人年齢は18歳です。大人になる代表的なイベントである「車の運転」と「飲酒」は必ずしも18歳になったらできるわけではありません。州ごとに異なりますが、仮免許が15歳からで、16歳にはすでに免許証を持つ人が多いですね。飲酒は21歳になるまでは禁止です。なので私が初めてお酒を飲んだのは東京に留学していた20歳の時でした（笑）。メキシコ文化が盛んな私の出身地、ニューメキシコ州では、「quinceanera」（15歳の誕生日パーティー）というものがありますが、これが成人式に近いかもしれません。

VIETNAM　ベトナム出身　タオさん

ベトナムの成人年齢は18歳で運転免許や喫煙、飲酒も18歳からです。ただ、ベトナムでは日本のように成人の日を特別に扱う風習はありません。多くの学校では成人式を行わず、行う場合でも高校卒業式の後に開催されることが多いです。私の場合、高校の卒業式の夜に成人式が行われました。その日は、決まった服装ではなく好きなスタイルで参加する形でした。校庭には屋台が出ていて、ステージではパフォーマンスが色々と催されます。外部からDJを呼んで最後にはみんなできらめく光の下で踊ってとても楽しかったです。私の懐かしい青春の1ページです。

CHINA　中国出身　ソウさん&カ・エンさん

中国では、18歳以上を成人、18歳未満を未成年と定めています。成人式は地域や学校によって時期は様々ですが、例えば上海では12月3日の国家憲法記念日前に行われることが多く、愛国心、感謝の心や責任感などをテーマに、若者の憲法意識を高めることを目的としています。結婚年齢は男性が22歳、女性は20歳以上で、運転免許は18歳以上から取得可能です。実は中国の法律では飲酒年齢を直接禁止する法律はありません。が、未成年者への酒類やたばこの販売を禁止する規定により、未成年者の飲酒は実質的に制限されています。

	成人年齢	飲酒＆喫煙	運転免許	結　婚	選挙（投票）	入　隊
ブラジル	18歳以上	18歳以上	18歳以上	16歳以上	16歳～（任意） 18歳以上は義務	18歳以上（男性）義務 ※免除の場合が多い
アメリカ ＊州によって異なる	主に18歳以上	主に21歳以上	主に16歳以上	主に18歳以上	主に18歳以上	18歳以上（～25歳までの男性） 「登録」の義務あり
韓　国	19歳以上	19歳になる年の 1月1日から	18歳以上	18歳以上	18歳以上	18歳～：本人の志願により可能 19歳以上（～35歳までの男性）義務
ベトナム	18歳以上	18歳以上	18歳以上	男性20歳以上 女性18歳以上	18歳以上	18歳以上（～25歳までの男性）義務 ※延期、免除の場合あり
ロシア	18歳以上	18歳以上	16歳以上 ※運転は18歳～	主に18歳以上 （条件あり）	18歳以上	18歳以上（～30歳までの男性）義務
中　国	18歳以上	18歳以上	18歳以上	男性22歳以上 女性20歳以上	18歳以上	18歳以上（男性）「登録」の義務あり

world recipes
作ってみよう！
世界のレシピ

ベトナム料理　ネム・ラン（ベトナム風揚げ春巻き）

Nem rán

ベトナム出身 ラムさん

北部の定番揚げ春巻きです。ライスペーパーはビールでもどしたり、砂糖水やレモン水を塗るとカリっときれいなキツネ色に仕上がります。

教えてくれたのは…

材料

ひき肉	600g
エビ	200g
きくらげ	5g
干しシイタケ	3g
春雨もしくはビーフン	ひとつかみ
ヒカマ	1個
（＊熱帯野菜の根菜。日本では葛芋と呼ばれることも。手に入らなければなくてもOK）	
たまねぎ	1個
コールラビ	1/2個
（＊これも手に入らなければなくてもOK）	
にんじん	1/2本
青ネギ	ひとつかみ
パクチー	ひとつかみ
乾燥エシャロット（オニオン）	少々
食用油	大1
ライスペーパー	適量
ビール	適量
A ナンプラー	小1
A 塩	小1
A シーズニングパウダー	小1
A コショウ	小2

＜タレ＞ナンプラー、砂糖、お酢、水を1:1:1:5の割合で混ぜ合わせる。お好みでにんにくみじんぎり、チリパウダー（一味）、コショウを加える。

（下準備）

- きくらげ、干しシイタケ、春雨は水またはお湯で戻した後よく水気を切り、刻んでおく。
- ヒカマ、たまねぎ、コールラビ、にんじんは細切りにする。
- 青ネギ、パクチーはみじん切りにする。
- 清潔な布巾等にビールを浸し、その上でライスペーパーをやわらかくもどしておく。

（作り方）

① フィリング：ボウルにひき肉、食用油、調味料（A）を入れよく混ぜる。卵以外のすべての具材を加えさらに混ぜる。包む直前に卵を加え混ぜる（乾燥を防ぎます）

② 包む：ビールで浸してもどしたライスペーパーの中央に半分に切ったライスペーパーをもう1枚重ね、その上にフィリング、ダイス状に切ったエビを乗せ、きっちりと包む。

④ 2度揚げする：最初は中～弱火で、2度目は中～強火で2度揚げしたら出来上がり。

第3回&4回 多文化理解連続講座（ラトビア・韓国）

富山に縁のある海外在住者を講師に迎え、各国の歴史や文化等について紹介する多文化理解連続講座を開催します。

（第３回）　1月25日（土）14:00～15:30
テーマ　「ラトビアからの便り　～伝説と昔話から学ぶリガの歴史～」
（第４回）　２月８日（土）10:00～11:30
テーマ　「韓国からの便り　～韓国で大流行のMBTIからみえてくるもの～」

定員　各回25名　　費用　無料
締切　1月19日（日）

国際交流フェスティバル

富山に住むいろいろな国の人たちが集い、交流するお祭りです。世界の歌や踊りのステージ、国際交流・団体ブース、各国紹介ブース、バザー、体験コーナー、外国の料理コーナーなどがあります。いろいろな国の人たちと交流してみませんか？

日時　令和7年2月2日（日）10:00～16:00
場所　オーバード・ホール　中ホール

外国人カラオケ大会
出場者募集中！！！

国際交流サロン

※各回の詳細はホームページにてご確認ください。

○Conheça o Brasil ～ブラジルとのオンライン交流～

（１回目）　1月29日（水）20:00～21:00
内容：富山県にルーツを持っているブラジル人との交流

（２回目）　２月19日（水）20:00～21:00
内容：日本語が話せる又は日本語専攻のブラジル人大学生との交流

（３回目）　３月15日（土）20:00～21:00
内容：日本語とポルトガル語の会話（自己紹介など）

定員　各回10名　　申込　Googleフォームにて受付　　費用　無料

外国語の絵本よみきかせ親子の会

県内在住のネイティブ講師による外国語の絵本の読み聞かせ会です。

1/19（日）	英　語
2/16（日）	英　語
3/16（日）	ロシア語

時間　10:00～11:00
場所　（公財）とやま国際センター
申込不要・無料です。お気軽にご参加ください♪

TIC NEWS
Vol.154

（発行・編集）
（公財）とやま国際センター

〒930-0856　富山市牛島新町5-5（タワー111　4F）
TEL. 076-444-2500　FAX. 076-444-2600
URL http://www.tic-toyama.or.jp
Email　tic@tic-toyama.or.jp

ホームページ　facebook　Instagram　LINE